試　験　研　究

普通学級における教師

——学級内の人間関係に対する教師の認知と生徒の対教師態度等——

塩田芳久　三輪弘道*

I 問　題

昭和38年度文部省科学試験研究費による「指導者と被指導者との人間関係に関する教育心理学的研究——特に指導者養成の観点から——」という研究課題に対して3つの研究グループが編成された。この研究は，そのうちの「普通学級研究グループ」に属する研究の1部であって，とりあげた主要な問題は下記のようなものであった。

教育や指導が学級という1つの集団を単位として行なわれるかぎり，学級内における人間関係や集団関係に対する教師の正確な認知とそれに基づく適切な指導は，教育の成果をあげるための基本的な条件の1つであろう。

学級の児童生徒に対する教師の働きかけ（指導）は，かれの認知に基づいてなされるであろう。そして，その働きかけの性質は，教師・生徒関係，生徒相互関係に重要な影響を及ぼすであろう。学級内の人間関係のあり方は，児童生徒の学習意欲や学習活動の性質と密接に関連し，かれらの学習成果を大きく左右するであろう。

このような考えに基づいて，『自己の学級の人間関係に対する認知が正確な教師は，そうでない教師よりも，他の条件がほぼ同一ならば，その児童生徒の対教師態度はより好意的で，その学習成績もいっそう高いであろう。』という予想のもとに，ここではまず次のような2つの問題をとりあげることにした。

(1) 学級の人間関係に対する教師の認知を，実際に sociometric test でとらえた生徒相互の関係，ならびに guess-who-test 形式によってとらえられた生徒の認知と比較対照することによって，その正確度を評定するという方法上の問題を検討すること。

(2) 児童生徒の対教師態度，対仲間態度，対学校態度をとらえ，その結果をさきの教師の認知の正確度と関係づけてみるという問題。これには，対教師，対仲間，対学校態度の測定の問題と同時に，教師の認知の正確度の評定の妥当性を検討するという問題も含まれる。

なお，これらの問題に付随するものとして，①生徒の認知する自己の社会的地位と現実のそれとの〝ずれ〟と適応の問題，②自己に対する教師の好意度についての生徒の認知と対教師態度の問題，の2つをとりあげた。

以上のような問題をとりあげることによって，次のいっそう進んだ研究の準備をするというのが，この研究のねらいである。

II 方法および手続き

1. 教師に対する調査

(1) 学級全員の社会的地位の評定——これは，児童生徒に対して行なわれる sociometric test による各人の sociometric status と比較対照される。評定は5段階。

(2) 学級全員を〝人気〟〝統率力〟〝信頼〟という点から評定——これは，児童生徒に対して行なわれる guess-who-test による各人の得点と比較対照される。評定は5段階。

(3) 学級の中の〝のけもの〟〝きらわれもの〟〝おそれられているもの〟の指摘——これも，児童生徒に対して行なわれる同様調査の結果と比較対照される。

(4) 学級の中の〝仲よし2人組〟〝対立者〟〝仲よしグループ（3人以上）〟の指摘——これも，児童生徒に対する同様調査と比較対照される。

2. 児童生徒に対する調査

(1) 〝勉強や仕事のときいっしょの組になりたい〟〝仲よしになりたい〟〝いっしょに遊びに行きたい〟という基準による sociometric test。選択形式は全員を5段階によって評定する再認形式——これから各人の社会的地位を決定し，教師の評定と比較対照する。

(2) 自己の社会的地位の評定——これは現実の社会的地位と比較対照される。

(3) 自己に対する教師の好意の評定——これは対教師態度等と関係づけられる。

*名古屋大学大学院教育学研究科博士課程

(4) 〝人気〟〝統率力〟〝信頼〟に関するguess-who-test——これは教師の認知と比較対照される。

(5) 〝のけもの〟〝きらわれもの〟〝おそれられているもの〟について guess-who-test——これも教師の認知と比較対照される。

(6) 学級の中の〝仲よし2人組〟〝対立者〟〝仲よしグループ（3人以上）〟に対する guess-who-test——これも教師の指摘と比較対照される。

(7) 対教師，対仲間，対学校態度の調査——調査項目等は巻末様式に示すとおりである。なお，この調査様式の作成については，長島・山崎「適応性診断テスト」，田研式「精神健康度診断検査」，牛島式「性格検査」，正木「性格指導検査表」などを参考にし，若干の予備テストを行なった。

3. 調査対象

調査を実施した学校は，愛知県I町の3小学校（5・6年）と1中学校（2年）で，学級数は合計10，各学校の生徒数および教師数は表1のとおりである。

表1 被調査者数

学校	学級	生徒 男	生徒 女	生徒 計	担任教師
A	5	5	8	13	1
	6	9	7	16	1
B	5	11	11	22	1
	6	12	10	22	1
C	5 a	22	15	37	1
	5 b	22	13	35	1
	6 a	20	21	41	1
	6 b	24	20	44	1
D	2 a	25	23	48	1
	2 b	27	23	50	1
計	小学5年	60	47	107	4
	小学6年	65	58	123	4
	中学2年	52	46	98	2
総計		177	151	328	10

なお，I町は北部山間の町で，県内では比較的閉ざされた地域に属する。とくに，このような地域の学校を選ばなければならなかった理由はないが，強いていえば，調査に対して積極的な協力が得られるということであった。

4. 調査時期

1963年10月。調査者は塩田，三輪，岩井，長田の4名。

Ⅲ 結果と考察

1. 生徒の社会的地位に対する教師の認知の正確度（生徒の sociometric status との相関）

(1) 教師の評定——教師に対しては，学級全員について，学級内における人気（みんなから好かれている）という点から5段階評定を行なうよう依頼した。最も人気のあるものを5，最も人気のないものを1とし，その割合はおよそ5＝10%，4＝20%，3＝40%，2＝20%，1＝10%とする。

(2) 生徒に対する sociometric test ——次の3つの選択基準によって，学級全員（自己を除く）を一番そうしたい順番に5・4・3・2・1の5段階にわけて選択させる。各人の社会的地位（sociometric status）は，自己を除く他の全員から与えられた評点の合計点によって決める。教師の評定との比較のために，この合計点を高い方から順番に10%，20%，40%，20%，10%をとり，それぞれ5・4・3・2・1の得点を与え，これをもって，各人の社会的地位得点とした。

選択基準A——組（はん）をつくって勉強や仕事をするとすれば，だれといっしょの組になりたいか。

選択基準B——この学級の中でだれと仲よしになりたいか。

選択基準C——日曜日などにいっしょに遊びに行くとすれば，だれと行きたいか。

(3) 教師の評定と生徒の sociometric status の相関——表2のとおりである。これによると，最も相関の高いのはA校5年の.926で，最も低いのはA校6年の.296で，教師によってかなりの開きがある。

このような開きがなにに基づくかは速断できないが，

表2 教師の認知した生徒の社会的地位と生徒の評価との相関係数

学校	学級	r
A	5	.926
	6	.296
B	5	.799
	6	.508
C	5 a	.527
	5 b	.553
	6 a	.845
	6 b	.461
D	2 a	.627
	2 b	.733

学級担任の期間，学級の人数，学級編成の期間，生徒の年齢，教師の経験年数などの条件のほかに，もっとも有力なものとして，学級内の人間関係に対する教師の態度あるいは配慮（これは，教育や指導における人間関係の重要性を認識する程度と実際の指導方法や技術の適否という2点から明らかにされるであろう）の条件があげられるであろう。

なお，Bonny, M.E. や Cowell の同様な研究の結果と比べると，ここでの相関は全般にやや高いようであるが，このような差異もおそらくは上記のいずれかの条件に基づくものと考えられる。

2. 学級内の積極児（人気，統率力，信頼）に対する教師の認知の正確度（生徒に対する guess-who-test の結果との比較対照——一致度）

(1) 教師の評定——教師に対しては，〝みんなから好かれている〟〝みんなから学級をまとめていく力をもっていると思われている〟〝みんなから信頼されている〟という3点それぞれについて，学級全員を5段階にわけて評定するよう依頼した。評定方法，および5段階評定の割合は，Ⅲ1(1)と同じである。

(2) 生徒に対する guess-who-test——次の3点それぞれについて，学級の中から3人選択させる。

A．みんなから好かれているのはだれか。

B．みんなをまとめていく力のあるのはだれか。

C．みんなから信頼されているのはだれか。

(3) 教師の評定と生徒の guess-who-test の結果との一致度——表3に示すとおりである。一致度は，guess-who-test による各人の総得点の上位30%とそれ以外，および教師の5段階評定の上位2段階をまとめた30%のものとそれ以外のものとの連関係数であらわした。

表 3 学級内の積極児に対する教師の認知と生徒のそれとの一致度（連関係数）

学校	学級	人　気	統率力	信　頼
A	5	.673	.838	.838
	6	.174	.918	.564
B	5	.436	.436	.682
	6	.487	.692	.410
C	5 a	.436	.413	.508
	5 b	.552	.503	−.277
	6 a	.598	.743	.583
	6 b	.242	.497	.587
D	2 a	.253	.707	.453
	2 b	.612	.532	.667
計	小学5年	.591	.587	.355
	小学6年	.471	.721	.620
	中学2年	.485	.673	.611
総　計		.512	.665	.523

A．人　気

Ⅲ1で，教師の認知した生徒の社会的地位と生徒の sociometric status との相関について述べたが，本質的にはそれと同じである。ただ，方法が一方は sociometric test（3基準，再認形式）によって学級全員の社会的地位得点をもとめ，それを教師の認知した社会的地位と比較しているのに対して，他方は学級の中から〝人気もの〟3人を選択させて，その結果を教師の認知した社会的地位と比較している点で異なっている。当然結果は，Ⅲ1と同じ傾向を示すことが期待される。Ⅲ1の場合と同じく，この連関係数でもやはりA校5年が.673と最高で，A校6年が.174と最低である。学年の上昇にともなって一致度（連関係数）に一定の傾向はみられない。全体として.512と，教師の認知の正確度は，かなり高いといえる。

B．統 率 力

最低が.413，最高が.918と全体に一致度は比較的大きい。これは，統率力が，班長・学級委員・級長などの選出や彼らの役割遂行過程において，教師にとっても生徒にとっても観察する機会の多い性質のものであるからではなかろうか。人気でもっとも一致度が低かったA校6年が，統率力では.918と非常に高い一致度を示しているのが注目される。

C．信　頼

信頼に関しては，一致度−.277〜.838と，教師によってかなり開きがある。とくに，C校5b組は−.277と逆連関を示している。

最後に，〝人気〟〝統率力〟〝信頼〟の3つをまとめてながめてみよう。学年別では，〝統率力〟〝信頼〟に関しては6年が高く，〝人気〟については，5年が最も高い一致度を示している。次に，教師別にみると，〝人気〟〝統率力〟〝信頼〟の3つに高い一致度を示したのがA校5年の教師で，それぞれ.673，.838，.838，である。これに対して3つとも比較的低い一致度を示したのは，C校5a組の教師で，それぞれ.436，.413，.508である。総じて，ここでも教師によってかなりの差異が認められる。

3. 学級内の消極児（のけもの，きらわれもの，おそれられているもの）に対する教師の認知の正確度（生徒に対する guess-who-test の結果との比較対照——一致率）

(1) 教師に対する調査——教師に対しては，学級の中でみんなから，〝のけものにされているもの〟〝きらわれているもの〟〝おそれられているもの〟それぞれについて該当すると思われるもの全員を指摘するよう依頼し

た。

(2) 生徒に対する guess-who-test——学級の中で，みんなから，〝のけものにされているもの〟〝きらわれているもの〟〝おそれられているもの〟それぞれについて，3人選択させた。

(3) 教師の指摘と生徒の guess-who-test の結果との一致率。

A．一致率——生徒側は3人制限であるのに対し，教師側は無制限選択である。この両者の一致率を求める際に考慮すべきことは，およそ次の点であろう。

i〉 教師の指摘数。他の条件が等しければ，教師の指摘数が増加すれば，教師の認知が生徒の guess-who-test の結果と一致する確率も高くなる。

ii〉 教師の指摘したものを，学級の何割のものが指摘しているかによって一致率に重みづけをするかどうか。

iii〉 教師は，学級の何割以上のものから指摘されているものを指摘すればよいとするか。

iv〉 教師の指摘したものを，生徒はだれも指摘していない時は，一致率をどうするか。

等々である。しかし，本研究では，こうした点を考慮したのぞましい一致率算出法を見出すことが出来なかった。ここでは大ざっぱな一致率算出を試みたにとどまった。すなわち，学級の25%以上のものから指摘されているものだけをとりあげ，そのうちの何割を教師が指摘したかをもって，教師の認知と生徒のそれとの一致率とした。

B．結果——表4，表5，表6は，それぞれ〝のけものにされているもの〟〝きらわれているもの〟〝おそれられているもの〟に対する教師の認知の正確度——生徒の認知との一致率——を示したものである。

表 4　消極児（〝のけもの〟）に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）　NR＝無応答

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 5b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知された者	0	4	3	2	2	4	2	4	3	5
(2) (1)のうちで，教師もあげている者	0	1	0	1	2	3	0	1	2	2
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	—	25	0	50	100	75	0	25	67	40
(4) 教師のあげた者の総数	1	1	1	2	2	6	NR	1	3	2
(5) (4)の教師のあげた者のなかで生徒の1人もあげなかった者	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0

表 5　消極児（〝きらわれもの〟）に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）　NR＝無応答

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 5b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知された者	0	4	5	2	1	4	4	4	4	3
(2) (1)のうちで教師もあげている者	0	1	4	2	0	4	1	1	2	2
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	100	25	80	100	0	100	25	25	50	67
(4) 教師のあげた者の総数	NR	1	5	4	4	8	1	2	5	2
(5) (4)のうちで生徒が1人もあげなかった者	0	0	0	0	3	1	0	0	1	0

表 6　消極児（〝おそれられているもの〟）に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）　NR＝無応答

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 6b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知された者	0	0	4	0	1	2	2	2	0	1
(2) (1)のうちで教師もあげている者	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	—	—	25	—	0	50	0	50	—	0
(4) 教師のあげた者の総数	NR	NR	1	1	2	3	NR	3	4	2
(5) (4)のうちで生徒が1人もあげなかった者	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1

〝のけものにされているもの〟〝きらわれているもの〟〝おそれられているもの〟の全調査対象教師とその担当学級との平均一致率は，それぞれ41.37%，54.84%，25.00%と，〝きらわれているもの〟がもっとも高い一致率を示し，〝おそれられているもの〟がもっとも低い。

この集計法で注意すべきことは，25%以上のものから指摘される消極児のいない学級には，教師の指摘すべき消極児がいないということである。教師は該当するものがないので指摘しなかったのであれば，一致率は100%といえる。しかしその場合，教師は学級内に該当するもののいないことを明記する必要があろう。また，教師が何人かの生徒を消極児として指摘しても，学級の何人かが消極児として彼らを指摘していることが必要であろう。

C．不一致と対教師，対仲間，対学校態度

教師の指摘数を何らかの形で一致率算出の際考慮にいれる必要のあることは前述した。表4，表5，表6の下二段に，教師の指摘総数と，そのうちで生徒のだれも指摘しなかったものとが示されている。いま，(a)生徒は1人も指摘していないのに，教師からは消極児であると指摘されたもの。(b)学級の25%以上のものが消極児であると指摘しているのに，教師はそれを指摘していないものをとり出して，その対教師，対仲間，対学校態度について検討してみよう。

対教師，対仲間，対学校態度は巻末の調査用紙により測定した。対教師，対仲間態度のもっとものぞましいものは，20点，対学校態度は10点であり，もっとものぞましくない態度は，いずれの場合も0点である。

① 生徒はだれ1人として〝のけもの〟〝きらわれもの〟〝おそれられているもの〟の3つのいずれにも該当するとしていないのに，教師からは3つのうちの1つ以上にそうだと指摘されたもの（N＝5）の態度（平均）

対教師態度	8.8
対仲間態度	14.0
対学校態度	7.4

② 〝のけもの〟〝きらわれもの〟〝おそれられているもの〟の3つのうち2つに，生徒の25%以上のものが該当するとしているのに教師は3つのいずれにも該当するとしなかったもの（N＝9）の態度（平均）

対教師態度	11.0
対仲間態度	11.7
対学校態度	5.7

当然のこととはいえ，教師の指摘したものと生徒の指摘したものとに大きい〝ずれ〟のある場合，教師によって，生徒集団とは異なって〝よく〟認知された生徒は，教師に対してはより積極的な態度を示しているが，仲間や学校に対する態度はより消極的である。これに反して，教師によって，生徒集団とは異なって〝わるく〟認知されている生徒は，教師に対してより消極的態度を示しているが，仲間や学校に対する態度はより積極的である。

なお，〝のけもの〟〝きらわれもの〟〝おそれられているもの〟の3項目のうち2項目に，学級の25%以上のものから指摘されているにもかかわらず，教師によっては指摘されていない生徒の最も多い学級は，A校6年である。この学級は生徒数16名であるが，そのうち3名の消極児を教師は見落している。

4．学級内の〝仲よし2人組〟〝対立者〟〝仲よしグループ〟に対する教師の正確度（生徒に対するguess-who-test の結果との比較対照――一致率）

(1) 教師に対する調査——教師に対しては，学級の中で，〝2人が組になっていつも仲よくしている生徒〟〝2人が対立してつねにはりあっている生徒〟〝いつも1グループをつくって，なんでもいっしょにしている，いわゆる生徒のグループ〟をそれぞれ全部あげるよう依頼した。

(2) 生徒に対する guess-who-test——教師に対する調査と同様，学級の中で，〝2人でいつも仲よくいっしょにしている人〟〝2人がいつも対立してはりあっている人〟〝いつも組（3人以上）をつくって，なんでもいっしょにしている人たち〟をそれぞれ全部あげるよう求めた。

(3) 教師の認知と生徒の guess-who-test の結果との一致率——〝仲よし2人組〟〝対立者〟についての一致率算出法は，Ⅲ 3の場合と同じである。〝仲よしグループ〟については，3人グループをもとにして，4人以上のグループをながめ，最大公約数的な3人グループを求めその頻数を数えた。その際，教師指摘のグループが生徒指摘のグループと3人以上共通したものがある場合は，教師のグループにあわせてまとめた。

表7，表8，表9は，それぞれ〝仲よし2人組〟〝対立者〟〝仲よしグループ〟について，教師と生徒の認知の一致率を示したものである。

表 7　〝仲よし2人組〟に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 5b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知されたもの	2	1	4	3	3	0	1	0	3	2
(2) (1)のうちで，教師もあげているもの	0	1	3	1	2	0	0	0	1	1
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	0	100	75	33	67	—	0	—	33	50
(4) 教師のあげたものの総数	0	2	6	4	4	6	3	3	5	5
(5) (4)の教師のあげたもののなかで生徒の1人もあげなかったもの	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2

表 8　〝対立者〟に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）　NR＝無応答

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 5b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知されたもの	0	0	2	1	1	0	0	1	0	1
(2) (1)のうちで，教師もあげているもの	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	—	—	50	100	0	—	—	0	—	0
(4) 教師のあげたものの総数	1	0	3	1	1	2	NR	NR	2	0
(5) (4)のうちで生徒の1人もあげなかったもの	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0

表 9　〝仲よしグループ〟に対する教師の認知と生徒のそれとの一致率（%）

学級	A 5	A 6	B 5	B 6	C 5a	C 5b	C 6a	C 6b	D 2a	D 2b
(1) 学級の25%以上のものから認知されたもの	2	2	3	3	0	0	0	0	2	1
(2) (1)のうちで，教師もあげているもの	2	1	3	2	0	0	0	0	2	1
(3) 一致率（%）$=\frac{(2)}{(1)}\times 100$	100	50	33	67	—	—	—	—	100	100
(4) 教師のあげたものの総数	3	1	3	2	2	3	4	9	4	2
(5) (4)のうちで生徒の１人もあげなかったもの	1	0	0	0	1	0	1	8	1	0

これらの表をみると，教師間の一致率には大きな開きのあることがわかる。

学級差を無視して全体の一致率を求めてみると，〝仲よしグループ〟が84.46%でもっとも高い一致率を示し，ついで〝仲よし２人組〟の47.37%，もっとも低い一致率は〝対立者〟の33.33%である。このことは，〝仲よし〟という積極的な人間関係の方が，〝対立〟という消極的な人間関係よりも，教師によっていっそう正確かつ容易に認知され得ることを示唆するものであろう。

生徒が１人も指摘していないにもかかわらず，教師が指摘しているものは，調査対象の10学級あわせて，〝仲よし２人組〟では６組，〝対立者〟では５組ある。なお，〝仲よしグループ〟で，C校６ｂ組の教師は９グループを指摘しているが，そのうち８グループまでは生徒の指摘しなかったグループである。

そこで，このC校６ｂ組の教師の他の人間関係に対する認知の正確度はどうであろうかみてみよう。①生徒の社会的地位については.461（相関値）②信頼については.587（連関係数）③統率力については.497，④〝のけもの〟は０%（一致率）⑤〝きらわれもの〟は25%，⑥〝おそれられているもの〟は50%である。また，⑦〝仲よし２人組〟と〝仲よしグループ〟については，生徒の25%以上のものが指摘した組およびグループがなかったので，なんともいえないが，〝対立者〟についての一致率は０%である。このような学級内の人間関係や集団関係に対するこの教師の認知は，調査対象10学級の教師の中ではもっとも不正確なものである。

表10は，全調査対象10学級の対教師，対仲間，対学校態度得点の平均と標準偏差を示したものである。これによると，上記のC校６ｂ組の教師に対す態度得点は11.00で，それほど低いとはいえないが，仲間に対する態度と学校に対する態度得点は，それぞれ12.61，5.70で，10学級中最低の得点である。このことは，学級の人間関係や集団関係に対する教師の認知の正確さと，その学級の対教師，対仲間，対学校態度（これを適応といいかえてもよい）との間にはなんらかの関係があることを示唆するものであろう。

表10　各学級別態度

学級	対教師態度 M	対教師態度 σ	対仲間態度 M	対仲間態度 σ	対学校態度 M	対学校態度 σ
A 5	11.08	1.82	13.92	3.43	7.23	1.72
6	11.50	2.40	16.00	2.35	7.56	1.62
B 5	11.50	3.31	12.95	2.84	6.36	1.87
6	12.36	2.92	14.14	2.14	6.77	1.41
C 5a	8.05	3.36	12.92	2.63	6.27	1.45
5b	10.83	3.16	13.74	2.62	6.57	2.06
6a	9.60	2.17	13.31	2.46	6.86	1.52
6b	11.00	2.00	12.61	2.01	5.70	2.06
D 2a	7.38	3.01	14.31	2.14	6.85	1.63
2b	12.48	2.97	13.12	3.17	6.66	2.09

M；平均　σ；標準偏差

5. 学級の人間関係に対する教師の認知の正確度と生徒の態度（適応）の関係

この関係を明らかにするための１つの方法として，表２―生徒の社会的地位に対する教師の認知の正確度（これをTC_1とする）および表３――学級内の積極児に対する教師の認知の正確度（これをTC_2とする）と，表10―生徒の対教師，対仲間，対学校態度の得点（これをA_1，A_2，A_3とする）を比較対照することが考えられる。比較対照の仕方にも種々な方法が考えられるが，ここでは，資料の性質上，ごく大まかな傾向を知れば足り

るという意味で，列位差法による相関（ρ）を算出することにした。

$$TC_1 \text{ と } TC_2 = .576$$

$$TC_1 \text{ と } A_1 = -.042 \quad TC_2 \text{ と } A_1 = -.474$$

$$TC_1 \text{ と } A_2 = -.091 \quad TC_2 \text{ と } A_2 = .327$$

$$TC_1 \text{ と } A_3 = .224 \quad TC_2 \text{ と } A_3 = -.703$$

$$A_1 \text{ と } A_2 = -.018$$

$$A_1 \text{ と } A_3 = -.067$$

$$A_2 \text{ と } A_3 = .842$$

$$(TC_1 + TC_2) \text{ と } (A_1 + A_2 + A_3) = .424$$

この結果をみると，TC_2 すなわち学級内の積極児に対する教師の認知の正確な学級は，生徒の態度（適応）も良好であるという傾向を認めることができるが，TC_1 すなわち生徒の社会的地位に対する教師の認知の正確さと生徒の態度（適応）とは無関係であることがわかる。そこで，TC_1 と TC_2 を総合し，態度 A_1，A_2，A_3 も総合して両者の相関を算出すると，上記結果の末尾に示すように.424という比較的高い値が得られた。しかし，この値はNが少数のため統計的には有意でない。したがって，結論めいたことをいうのは差し控えなければならないが，一応，次のような予想を立てることは許されるであろう。

学級内の人間関係に対する教師の認知の正確さと，その学級の生徒の態度（適応）との間には積極的な関係がある，と。

なお，態度調査において，A_1 と A_2，A_1 と A_3 の相関が0に近いこと，A_2 と A_3 の相関がひじょうに高いこと，などいささか問題であり，今後の研究によって解決される必要があろう。

6. 生徒の認知する自己の社会的地位と現実のそれとのずれと対仲間態度，対学校態度

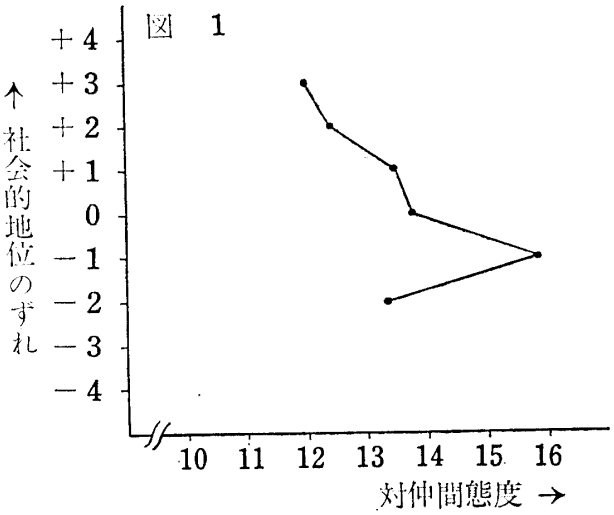
生徒は学級集団のなかで，自分の認知した自己の社会的地位にふさわしい行動をするであろう。しかし，彼の社会的地位が，認知しているものと異なる場合は，その集団に対して，よりのぞましい態度をとっていないであろう。この予想を確かめるために，生徒に対して，〝この学級でみんなから好かれているとか人気があるとかそういうことがあると思う。いまそういう人気について，学級の全員を順番にならべると，あなたはどれくらいになるか〟を5段階に評定させた。現実の社会的地位の測定法は，Ⅲ1で述べたとおりである。表11は，そのずれと，対仲間態度，対学校態度を示したものである。

まず，対仲間態度についてみると，ずれが小さくなるにつれて，態度はより望ましくなっていくが，仲間に対してもっとも望ましい態度を示すのは，ずれの全くない場合ではない。現実の社会的地位が生徒の認知するそれより1段階上の場合である。図1は，表11のずれと対仲間態度の関係を図示したものである。

次に対学校態度であるが，ここではずれとの間に一定の関係を見出すことは出来ない。

表11 生徒の認知する自己の社会的地位Ⅰと現実のそれⅡとのずれと対仲間態度，対学校態度N＝327

Ⅰ－Ⅱ	対仲間態度	対学校態度
＋ 4	――――	――――
＋ 3	12.00 (3)	6.33 (3)
＋ 2	12.38 (22)	6.55 (22)
＋ 1	13.43 (76)	6.63 (76)
0	13.75 (130)	6.38 (130)
－ 1	15.96 (75)	6.71 (75)
－ 2	13.33 (21)	6.81 (21)
－ 3	――――	――――
－ 4	――――	――――



7. 自己に対する教師の好意度についての生徒の認知と対教師態度

自己に対する教師の好意度は，生徒に対して〝先生からどれくらい好かれていると思うか〟を5段階で評定させることによって求めた。

一般に，〝生徒が教師に好かれていると思っていればいるほど，その生徒の教師に対する態度は，ますます望ましいものとなる〟ことが予想される。この関係をみようとしたのが，表12である。これによると，教師にもっとも好かれているとして5の段階に評定したものは，対教師態度，14.0，以下12.8，10.4，9.3，7.4と，嫌われていると思うにつれて，対教師態度は悪くなっている。

教師に好かれていると思うこと自体，教師に対するより望ましい態度をあらわすことであるとすれば，この結果は当然であるといえよう。

表12　自己に対する教師の好意度についての生徒の認知と対教師態度　N＝328

段　階	対教師態度
5	14.0 (1)
4	12.8 (37)
3	10.1 (221)
2	9.3 (52)
1	7.4 (17)

Ⅳ　要　　約

以上，①教師が自己の指導する学級内の人間関係や集団関係をどのように認知しているか，その正確度を評定するための方法上の問題，②そのような認知の正確度をその学級の生徒の対教師，対仲間，対学校態度得点と関係づけてみるという問題，③そして，付随的な問題として『学級内における自己の社会的地位に対する生徒の認知と現実のそれとの〝ずれ〟と適応』『自己に対する教師の好意度の認知と対教師態度の関係』の２つの問題をとりあげたが，以下にその結果の要点を列挙しよう。

(1)　学級内の人間関係に対する教師の認知を，①生徒の社会的地位，②学級内の積極児（人気，統率力，信頼），③学級内の消極児（のけもの，きらわれもの，おそられているもの），④学級内のグループ関係（仲よし２人組，対立者，仲よしグループ）の４つの側面からとらえ，その正確度を，生徒に対する sociometric test による各人の社会的地位ならびに guess-who-test による積極児，消極児，グループ関係に関する生徒集団の認知と比較対照することによって評定する，という方法を検討した結果は，およそ次のとおりである。

①　生徒の社会的地位に対する教師の認知の正確度を実際の sociometric status との相関値によって評定する，という方法は有用であること。実際に得られた相関は.296～.926で，かなり高い値であるが，教師によってかなりの開きがある。

②　学級内の積極児に対する教師の認知の正確度を生徒集団の認知と連関係数によって示すという方法も，①と同様に有用であること。実際に得られた一致度は，〝人気〟.512，〝統率力〟.665，〝信頼〟.523であった。

③　学級内の消極児に対する教師の認知と生徒集団の認知を一致率によって示すという方法には多くの問題点があり，このままの形式では，これをもって教師の認知の正確度を評定する資料とすることはむづかしいこと。

④　学級内のグループ関係に対する教師の認知の正確度を生徒集団の認知との一致率によって示すという方法にも，③の場合と同様にいくつかの問題点があり，今後の検討を要すること。この問題点のうちもっとも基本的なものは，教師ならびに生徒に対する資料のとり方であるように思われる。

(2)　そこで，上記の①社会的地位の認知と②学級内の積極児の認知の資料を，生徒集団の対教師，対仲間，対学校態度得点と関係づけた結果は，不満足ながら一応次のような予想を立てることができた。

『学級内の人間関係に対する教師の認知の正確度と，その学級の生徒の態度（適応）との間には積極的な関係がある。』

なお，生徒に対する態度調査にも若干の問題点があるので，今後の研究によって改善しなければならない。

(3)　付随的な問題である，①社会的地位の認知と現実の〝ずれ〟と適応の関係については，〝ずれ〟の小さいものほど対仲間，対学校態度も良好であること，②教師の自己に対する好意度の認知と適応の関係についても，両者の間に積極的な関係を認めることができた。

最後に，今後の問題として，①学級内の消極児とグループ関係に関する教師の認知の正確度をいっそう合理的に評定する方法の発見，②生徒の態度測定の検討，③これらの方法上の問題を解決したうえで，教師の学級内の人間関係に対する認知の正確度と生徒の態度（適応）の関係に関する上記の予想を確かめるための研究を計画すること，などがあげられる。なお，③の研究計画には，さきに述べた学級担任の期間，学級の人数，学級編成の期間，生徒の年齢，教師の経験年数，教師の教育観などの条件を十分考慮に入れる必要があるのはいうまでもない。　　(1964年７月)

参考文献

(1)　Bonny, M. E., A Study of Social Psychology on the Second Grade Level. J. Genet. Psychol. 1942.

(2)　Moreno, J. L., Who Shall Survive? 1934. Revised Edition, 1952.

(3) 小川一夫，学級の社会構造に対する教師の態度に関する研究，第1報告，教育心理学研究，3巻4号，昭31.
(4) 長島貞夫，児童社会心理学一性格の社会的形成，昭31.
(5) 中野・長島等，行動特性の重要条件としての社会的役割，昭30．日本心理学会発表。
(6) Classroom Guidance, (in) Encyclopedia of Child Guidance. 1946.
(7) 塩田・大橋，教育心理学的診断の予見性に関する追跡研究—交友関係調査について—，名古屋大学教育学部紀要，4巻，1958.
(8) Bogen, I., Pupil-Teacher Rapport and the Teacher's Awareness of Status Structures within the Group. J. Educ. Soc. 28, 1954.

試　験　研　究

別紙様式

調　査　II—F—A

名古屋大学教育心理学教室

＿＿＿＿＿＿学校＿＿＿＿学年＿＿＿＿組＿＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿男・女

あなたは，学校の友だちについていろいろな考えや感じをもってるでしょう。次に，友だちについてあなたたちがもっていると思われる考えや感じが書いてあります。これをよく読んで，あなたの日頃の考えや感じによくあっているときは，「はい」を，ちがっているときは，「いいえ」を○でかこんでください。

なおこれは，研究のため以外はまったく使いませんから，思ったまま正直にこたえてください。

1. あなたは，友だちが多いですか。　はい・いいえ
2. あなたは，友だちが悪いので，ほかの学校へかわっていきたいと思うことがありますか。　はい・いいえ
3. あなたは，多くの友だちからきらわれていると思いますか。　はい・いいえ
4. あなたは，何か困ったとき相談する友だちがいますか。　はい・いいえ
5. あなたは，友だちといっしょによく勉強したり，遊んだりするほうですか。　はい・いいえ
6. あなたは，友だちとよくけんかをしますか。　はい・いいえ
7. あなたは，ひとりでいるより友だちといっしょにいるほうがすきですか。　はい・いいえ
8. あなたの友だちは，困ったことがあるとあなたに相談に来ることが多いですか。　はい・いいえ
9. あなたは，ほかの友だちがおもしろがっていることに，たいてい，はいらないほうですか。　はい・いいえ
10. あなたの友だちは，あなたのいうことをよくききいれてくれますか。　はい・いいえ
11. あなたは，友だちがよい考えを出したらすなおに，それをみとめますか。　はい・いいえ
12. あなたは，友だちの世話をしてあげることは，ばかげたことだと思いますか。　はい・いいえ
13. あなたは，学校でどんな友だちとでも話ができますか。　はい・いいえ
14. あなたの友だちは，あなたをいじめることが多いですか。　はい・いいえ
15. あなたの友だちは，あなたにいやなことをたのみますか。　はい・いいえ
16. あなたは，友だちといっしょの仕事のほうを，自分の仕事より後にまわすほうですか。　はい・いいえ
17. あなたは，すきでない友だちでも，しなくてはならない仕事をがまんしていっしょにやりますか。　はい・いいえ
18. あなたは，きらいな友だちの悪口をときどき言いますか。　はい・いいえ
19. あなたは，友だちのためなら，いやなことでもがまんすることが多いですか。　はい・いいえ
20. あなたは，友だちどうしで役をきめるとき，自分のいやな役はどこまでもいやだとがんばりますか。　はい・いいえ

調　査　II—T—A

名古屋大学教育心理学教室

＿＿＿＿＿＿学校＿＿＿＿学年＿＿＿＿組＿＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿男・女

あなたは，自分の受持ちの先生についていろいろな考えや感じをもっているでしょう。次に，先生についてあなたたちがもっていると思われる考えや感じが書いてあります。これをよく読んで，あなたの日頃の考えや感じによくあっているときは，「はい」を，ちがっているときは「いいえ」を○でかこんでください。

なお，この結果は，先生には〝けっして〟みせませんから，思ったまま正直にこたえてください。

1. あなたは，先生のような人になりたいと思いますか。　はい・いいえ
2. あなたは，先生がもっと熱心に教えてくれたらよいと思うことがありますか。　はい・いいえ
3. あなたは，先生のいわれたことがまちがっていると，きづくことがときどきありますか。　はい・いいえ
4. あなたは，先生を親のように思うことがありますか。　はい・いいえ
5. あなたは，先生に困ったときは，なんでも相談できますか。　はい・いいえ
6. あなたは，先生からできるだけ逃げとおざかっていますか。　はい・いいえ
7. あなたは，先生のいわれたことはなんでもよろこんでしますか。　はい・いいえ
8. あなたは，先生の前では，おそろしくビクビクしていますか。　はい・いいえ

普通学級における教師

9. あなたは，先生が自分だけにとくにきつくあたっていると思うことがありますか。 はい・いいえ
10. あなたは，先生がもっと自分たちの気持をかわってくれたらよいと思いますか。 はい・いいえ
11. あなたは，先生がどこかの学校へかわってくれたらよいと思いますか。 はい・いいえ
12. あなたは，先生がひいきをするからいやだと思いますか。 はい・いいえ
13. あなたは，先生がたよりになる人だと思いますか。 はい・いいえ
14. あなたは，先生の悪口をときどきいいますか。 はい・いいえ
15. あなたは，先生からときどきこごとをいわれ，しかられるからいやだと思いますか。 はい・いいえ
16. あなたは，先生がなんとなくきらいですか。 はい・いいえ
17. あなたは，先生が面白くないので学校へ行きたくないと思うことがありますか。 はい・いいえ
18. あなたは，先生にすかれていると思いますか。 はい・いいえ
19. あなたは，ほかの人のほうがあなたより先生にすかれていると思いますか。 はい・いいえ
20. あなたは，先生といっしょに，よく遊んだりお話をしたりしますか。 はい・いいえ

調　　査　II－S－A

名古屋大学教育心理学教室

＿＿＿＿＿学校＿＿＿学年＿＿＿組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿男・女

あなたは，自分の学級や学校についていろいろな考えや感じをもっているでしょう。次に，学級や学校についてあなたたちのもっていると思われる考えや感じが書いてあります。これをよく読んで，あなたの日頃の考えや感じによくあっているときは，「はい」を，ちがっているときは「いいえ」を○でかこんでください。

なお，この結果は，先生には〝けっして〟みせませんから，思ったまま正直にこたえてください。

1. あなたは，たいがい学校にいるよりも，家にいる方がすきですか。 はい・いいえ
2. あなたは，ときどき学校を休みたくなりますか。 はい・いいえ
3. あなたは，いまの学級からほかの学級へかわりたいと思うことがありますか。 はい・いいえ
4. あなたは，学級でいろいろの会をもつとき，よろこんでそれに参加しますか。 はい・いいえ
5. あなたは，児童会や生徒会のような集まりはつまらないと思いますか。 はい・いいえ
6. あなたは，この学級をよくするにはどうしたらよいかと，ときどき考えることがありますか。 はい・いいえ
7. あなたは，この学校にいることをはずかしいと思うことがありますか。 はい・いいえ
8. あなたは，学校できめたことを，よく守ろうと，努力しますか。 はい・いいえ
9. あなたは，児童会などで，これは学級のためになると思ったら，反対意見が多くても，自分の意見をいいますか はい・いいえ
10. あなたは，学校生徒会や児童会の選挙は，あまり自分に関係ないことだと思いますか。 はい・いいえ